

自然体験活動のリーダー養成講習

～初心者歓迎！仲間と一緒に自然の中での活動を学ぼう～

【期日】 ①オンライン：9/15

②集合：9/20,21

【対象者】

年度末年齢16歳以上の者

【参加人数／募集人数】

10

／

20



1. 趣旨

野外での活動や講義等を通して、自然体験活動を指導する上で必要な基礎的な知識や技術を学ぶとともに、自然体験の重要性を普及啓発できる指導者を育成する。

2. プログラム内容

●オンライン形式

日	時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9/15 (月祝)				諸連絡	9:10～10:40 講義・演習①	休憩	10:50～12:20 講義・演習②	昼食			13:30～16:30 講義・演習③	諸連絡				

●集合形式

日	時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9/20 (土)					11:00～11:15 受付	11:15 開会式	11:30 ガイダンス	昼食	13:00～14:30 講義・演習④		14:30～17:30 演習⑤		夕食		18:00～21:00 演習⑥	自由時間
9/21 (日)			つと	朝食	宿舎清掃	9:00～12:00 講義・演習⑦		昼食	13:00 試験	13:30 ガイダンス	14:00 開会式	14:15 解散				

3. 活動内容

①開会式・ガイダンス

開会式で事業担当者や参加者が自己紹介を行い、ガイダンスでNEAL制度説明を行った。



②講義・演習「対象者理解」

対象者理解の必要性とその方法や、各年齢期の特徴や対象者への配慮事項などを講義と演習を通して学んだ。



③演習「自然体験活動の技術」

アイスブレイクの意義や目的を説明し、実際にアイスブレイクを実施した。また、ニュースポーツ体験やクラフト制作を行った。



④演習「自然体験活動の技術」

鉋で薪を割るときの、装備や注意点を確認し、小グループに分かれて実際の薪割りを行った。その薪を使って火を起こして、焚き火を行う際の火の扱い方を学んだ。



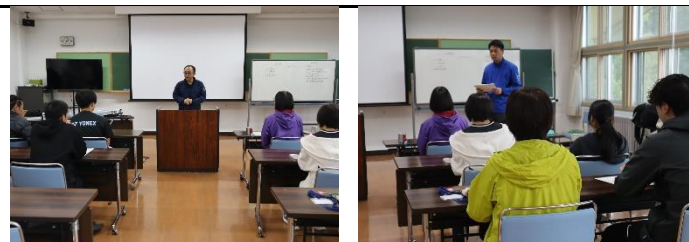
⑤講義・演習「自然体験活動の安全管理」

自然体験活動に潜むさまざまな危険やその安全管理について学んだ。後半はチームワークを高めるゲームを実際に行い、活動に伴うリスクを洗い出した。



⑥ガイダンス・閉会式

事業終了後に各自で行う説明をし、閉会式を行った。



4. アンケート結果

質問：事業全体に対しての満足度をお答えください。（人）

たいへん満足	やや満足	やや不満	たいへん不満
9	1	0	0

5. 参加者の声

- ・オンラインと集合研修の組み合わせが参加しやすく良かった。 ・座学と実践の配分がちょうど良かったです。
- ・これから学ぶことをわかりやすく説明してもらえて良かったです。 ・知らない人とコミュニケーションが取れて良かった。
- ・施設運営や今後のキャリアに役立つ内容であった。 ・参加者と協力し合うことや実際に身体を動かすことが良かった。
- ・しっかりまとまっていて、どこを伝えたいのかが分かりやすかった。 ・とても楽しく充実した1泊2日になりました。
- ・オンライン+現地で、（認定のためとはいえ）テストもあったので定着度が高く満足感が高かったです。
- ・天候を踏まえながら柔軟に内容を変更されていて良かった。 ・軍手がいついるか不明瞭だった。
- ・天候不順にもかかわらずまなびの多い講義や機会をありがとうございました。お天気の都合上仕方ありませんが、もっと野外に行く機会が欲しかったです。上履きが何かどんなものがいかが知れたかった。（ある程度走れるもの、体育館履きのようなもの、という説明が欲しかった。） ・参加者目線の楽しめる運営を行っていただいた。 ・サポートが充実していた。
- ・資料に沿いながらもご自身の言葉での説明があり、良かった。また、実際にお会いして、声掛け等勉強になることが多々あり。
- ・優しく指導していただけて楽しい時間が作れていたと思います。 ・たくさんのヒントをいただきました。
- ・とても有意義な時間を過ごせました。年齢的に、ちょっと遠慮もありましたが、世代関係なくコミュニケーションが取れて良かったで

6. 事業の成果

今回はオンライン形式と集合形式（1泊2日）を組み合わせで実施した。

「青少年教育における体験活動」、「自然体験活動の指導」、「自然体験活動の特質」についてはオンライン形式で行い、講義中心の内容ではあったが、参加者とのやり取りや、参加者同士の交流を多く作ることで、オンラインでも主体的に参加できるようにした。集合形式は演習中心の内容とした。

今回実施をしてみて、講義中心の内容はオンラインを活用することで、参加者の負担を減らし受講しやすさにつながった。また、講師についてもオンラインであれば、全国どこにいても依頼をすることができるのがメリットであった。ほかの事業でも、目的に応じてオンライン形式と集合形式を使い分けることで、参加者増や満足度向上を目指したいと思う。